

首里織の歴史と技法



琉球王国として栄えた時代、南方諸国との交易を通じて織物の技術が導入され、沖縄の気候風土に育まれた多種多様な琉球織物が生まれました。

その中でも、王都として栄え、歴史・経済・文化の中心であった首里では、王族、士族用に、色、柄共に究極まで追求された格調高く、麗美な織物が織り継がれてきました。

戦後、多くの先人の手により継承してきた技術・技法を、令和の時代にどのような形で次世代に織り継いでいくのか。伝統工芸の中の『首里織』の現在の取組にも触れ、『首里織』の魅力に迫ります！

那覇伝統織物事業協同組合(所有)
製作者 安座間 美佐子



〔講師〕
首里織伝統工芸士
安座間 美佐子氏

2024年
10月2日(水曜日)

午後2時から午後4時まで
(受付 午後1時30分から)

場所

サテライト会場：国頭教育事務所
(名護市大南1-13-11 北部合同庁舎5階)

対象

20名 県民一般(申込先着順)

学びのパスポート
2単位

申込開始日：9月18日(水曜日) 9時から ※土日・祝日を除く

※受講に当たり配慮が必要な方は、講座日一週間前までに御相談ください。

申込先：国頭教育事務所

電話

0980-52-2664

※定員に達し次第締め切りますので、お早めに申し込みください。

まなび
ネット
おきなわ



主催：沖縄県教育委員会

※講座情報は「まなびネットおきなわ」からもご覧いただけます